

調査期間：平成 26 年 7 月～9 月

対象者：平成 21 年 4 月 1 日～平成 25 年度 11 月 30 日の期間に緩和ケア病棟に入院した患者の遺族

調査方法：当院が独自に作成した質問紙による郵送調査

郵送数：360 通 回収数：196 通 有効回答：189 通 回収率：54%

1. 回答者の属性：記入者年齢：50～80 歳が 83%を占めた。記入者と故人との関係：配偶者 40.2%、子 36.0%、婿・嫁 11.6%などであった。

2. ケアの構造・プロセス評価：

設問	設問内容	大変満足 改善不要(%)	不満 改善希望(%)
Ⅲ-1	医師は痛み速やかに対処した	87.3	7.4
Ⅲ-2	医師は痛み以外の症状速やかに対処した	65.6	10
Ⅲ-3	医師、看護師による患者様の不安速やかに対処した	61.4	7.9
Ⅲ-4	医師は患者様・ご家族に病状を十分に説明した	83.1	13.8
Ⅲ-5	医師、看護師によるご家族の不安速やかに対処した	87.3	9.0
Ⅲ-6	患者様の希望が叶えられるようにスタッフは努力した	60.3	8.5
Ⅲ-7	希望した時に入院できた	87.8	6.8
Ⅳ-1	お別れが近づいた時期に使用したパンフレットについて	77.8	5.8
Ⅴ-1	退院時パンフレットについて	72.7	21.3
Ⅴ-4	退院して自宅療養されたことについて	79.4	6.3
Ⅵ-1	退院後の状態伺いのための電話連絡について	89.4	0.8

3. 退院支援から在宅療養支援に関する設問結果に対する分析：

設問Ⅳ-1 お別れが近づいた時期に使用した説明パンフレットについて

・改善しなくともよい 147 人/189 人 ・ 改善を希望する 11 人/189 人

設問Ⅴ-1 退院時の説明パンフレットについて（退院した患者のご遺族 99 人が対象）

・大変満足・満足 72 人/99 人 ・ 改善を希望・大いに改善希望 21 人/99 人

設問Ⅴ-4 退院して自宅療養されたことについて（退院し自宅で看取ったご遺族 42 人が対象）

・大変満足・満足 37 人/42 人 ・ 不満・大変不満 2 人/42 人

設問Ⅵ-1 退院後の病院看護師による電話連絡について（退院した患者のご遺族 183 人が対象）

・大変満足、改善不可 95 人/183 人 ・ 不満、改善を希望 1 人/183 人

4. まとめ：遺族アンケートの結果、ケアの構造・プロセスのいずれの項目においても 60%～90%の「満足」の評価を得られた。ここでは、推進事業の目的である退院支援と在宅療養支援に対する評価について分析し、抽出された課題とその対策について検討した。退院支援に関しては、退院パンフレットの内容や説明方法に対する「不満」や食事の内容、状態悪化時の対応、夜間帯の介護に関して知りたいという「要望」内容を把握した。在宅療養支援に関しては、病院からの状態伺いのための電話による支援が「不満」の要因であった。電話連絡の目的や連絡可能な時間帯、その際に知りたい情報について退院前に本人・家族と打ち合わせすることを標準化する必要がある。また、患者を看取った遺族より「仕事を休めず、一人で家に寝かせるのが可哀想だった。」「夜、わからないことがあり不安だった。」という記述があった。一方、定期的なレスパイトケアが効果的に家族の不安を軽減したという意見があった。不満や要望を解消できる退院パンフレットを作成してこれを活用してもらうこと、医療者の説明スキルの向上に努めること、レスパイト入院などの制度をより良く利用してもらうこと、家族との情報交換の機会をより多く持つことが重要であると考えられた。今回の調査は、遺族の意見を集約し、がん患者の退院支援や在宅療養支援における今後の方向性を見いだす上で有効であった。